

松 前 町

□縄文遺跡について

■遺跡名

東山遺跡

■概要

東山遺跡は、松前市街地から東へ1.2km、及部川と伝治沢川に挟まれた台地(通称:ノゴシ)の上に広がっています。

発掘調査によって、東山遺跡は縄文時代早期～晩期の遺跡であることが判明しました。中でも、縄文時代前期後半～中期前半の「盛り土遺構」は、北海道最大級の規模であり、当地が北海道と本州を結ぶ拠点集落であったことを示しています。



東山遺跡が所在する台地(通称:ノゴシ)



北海道最大級の「盛り土遺構」

■特徴的な遺構

盛り土遺構

盛り土遺構は1.8mの厚さがあり、縄文時代前期後半～中期前半の「円筒式土器」と呼ばれる筒型の土器が、押しつぶされる形で積み重なっていました。約400㎡という狭い調査範囲で、約36万点もの土器片が出土しています。

環状列石(ストーンサークル)

東山遺跡では、平らな石を並べ立てた環状列石が2基発見されています。一つは直径約9mあり、もう一つは外側が直径約6m、内側が約4mの石列を二重に配しています。

土壌墓

縄文時代晩期のお墓が9基発見されています。中には縄文時代後期の住居跡を掘り込んでお墓が造られていることから、住居地であった場所が後に墓域になったとみられます。



厚さ1.8mに堆積した盛り土遺構



一重(手前)と二重(奥)の環状列石

■ 主な遺物

東山遺跡からは、縄文土器や石器、土偶、土製・石製の装飾品など、約76万点の遺物が出土しました。このうち約36万点は、縄文時代前期後半～中期前半にかけて、東北地方北物～北海道南部を中心とした地域で製作・使用された円筒式土器です。

また、縄文時代晩期の土器の中には、顔料で赤く彩色されたものがありましたが、科学分析の結果、東山遺跡近郊で製作されたものではなく、本州から持ち込まれた可能性が高いことが判明しました。

同じく晩期の土壌墓からは、新潟県糸魚川産のヒスイで作られた首飾りや、赤く彩色された土製の玉などの副葬品が出土しています。



縄文時代前期～晩期までの土器



ヒスイの首飾りと、赤く彩色された土製の玉

■ 関連施設

松前町郷土資料館

(開館期間: 毎年4月10日～12月10日まで、入館無料、開館時間: 9時～17時)

所在地: 北海道松前郡松前町字神明30番地

電話番号: 0139-42-3060 FAX: 0139-42-2211



松前町郷土資料館近景



松前町郷土資料館の展示状況

□ 縄文文化を活用した取組について

毎年、春の松前さくらまつり期間中(4月末～5月中旬)にかけて、ボランティアサークル「文化財おたすけ隊」協力のもと、『松前縄文物語～東山遺跡展～』を開催し、東山遺跡出土遺物の展示や、町内で採れる滑石を用いた勾玉づくり体験、土器拓本体験などを実施しています。



「松前縄文物語～東山遺跡展～」の開催状況



拓本体験コーナー

□その他

遺跡の現況は道路・畑地となっています。見学希望の方は、上記連絡先までお問い合わせ下さい。

(東山遺跡:北海道松前郡松前町字東山・朝日(町道朝日豊岡線付近))

□お問い合わせ先

松前町教育委員会 文化社会教育課

所在地: 北海道松前郡松前町字神明30番地

電話番号: 0139-42-3060

* 記載内容については、各市町の教育委員会等にお問い合わせください。
また、本ページに掲載している写真等を無断で複製・転用することはできません。